

入選

親切の大切さ

岡山県 連島南小学校

四年 須藤 寧々

私は、気がついたときに、家にかぎらず、じゅくのトイレなどで、いつもスリッパをそろえています。向きが反たいだと、次の人がきつとはきにくいだろうなと思ったり、スリッパがきたないと、みんなが気持ちよくトイレを使えないんじゃないかなと思ったりするからです。

私は他の人がよろこんでくれるだろうと思い、この行動をとるようになりました。もちろん、一人ひとりが次の人のことを考えて、スリッパの向きをかえてぬげばいいのですが、なかなかみんなできていません。

私も1年生や2年生のころは、そんなことはどうでもいいと思っていました。というより、気にしていませんでした。けれど、3年生、4年生になって、自分のためだけに動くのではなく、他の人のためにも動こうという気持ちになりました。

学校で、中学年として、てい学年のお世話をすることが多くなり、しぜんにそういう気持ちが生まれてきたようです。きっと、だれにも気づいてもらえていない小さなことかもしれないけれど、私は、人のために役に立てて、よかったと思える行動ができる人になりたいです。

私は、1年生のころ、まったく知らない人から親切にされたことがあります。それは、ディズニーランドにあるホテルの正面入口のドアにいたときのことです。私は、家族とほかのお客さんの後ろにならんでいました。

そのとき、前にいたお客さんが、私たち家族のために、ドアをあけて、しまらないようにしてくれました。私は、ぜんぜん知らない私たちのためにドアをあけておいてくれて、やさしい人だなと感心しました。

そのとき私は、私にもこんなことができるかなと思いました。私は、人に声をかけるのが苦手なので、はずかしくてできないと思いました。

けれど、その人は、私たちに、

「どうぞ、先に行ってください。」

と言ってくれました。すてきな、やさしい言葉かけに、私の心は、温かい気持ちになりました。

小さな親切でも、された人はとてもうれしくなります。した人もされた人も、気持ちがいいものです。みんなが、小さな親切でいいから行動にうつすことができれば、町はやさしさにあふれると思います。

だから、私はこれからも、いろいろ自分にできる親切を見つけて、役に立てるようがんばりたいです。